

教育ふくしま

2003
8月号(隔月発行)
No.251

発行 福島県教育委員会
編集 福島県教育庁教育総務領域
総務企画グループ

特集

ふくしまの英語教育、国際理解教育
完全学校週5日制に対応した取組み
プロジェクト研究報告(養護教育センター)



総合型地域スポーツクラブ「たまかわ元気スポーツクラブ」

「うつくしま教育改革推進プログラム」

～ふくしまの教育7つの約束～

うつくしま広域スポーツセンター事業

県民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指して、広域スポーツセンターを設置し、総合型地域スポーツクラブの創設や運営、活動とともに広域市町村圏スポーツ活動を支援する事業です。完全学校週5日制への対応も視野に入れて進めています。

ホームページにも掲載しています。 <http://www.pref.fks.ed.jp>

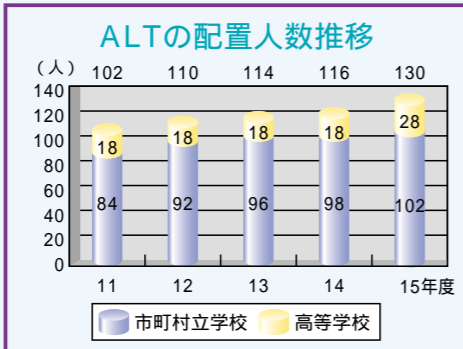
「教育ふくしま」に掲載を希望する内容等のご要望、ご意見は次の
アドレスへお願いします。 k.soumukikaku@pref.fukushima.jp

ふくしまの英語教育、国際理解教育

学校での実践の紹介

加速するグローバル化により、異なった文化を持つ人との共生が国際理解教育の重要な観点となっています。また、21世紀の国際社会で生きていくためには、「英語」によるコミュニケーション能力を身に付けることが重要です。そのため、福島県ではALTの招致を積極的に行ってきました。

今年度、高等学校ではALTの大幅な増員が図られ、10名増えて28名となりました。



ALTとは？

Assistant Language Teacher (外国語指導助手)
中学校・高等学校において日本人教師の外国語授業の補助を行います。最近は小学校への訪問も増えてきました。

小学校

「総合的な学習の時間」において約7割の学校が、地域のネイティブスピーカーの方や、ALTと体験的な活動(英語を用いたゲーム、歌、英会話活動、外国の食事や遊び等)を通して、外国の文化等について理解を深める学習を行っています。

中学校、高等学校

生徒が生きた英語に触れ、できるだけ英語を使う機会を増やすことが実践的なコミュニケーション能力等の英語力の向上につながると考え、積極的にALTの招致を図っています。

~ALTにきく~

エミリー・ディティールさん

アメリカから日本に来て3年目。現在、週に3日間は県立安積黎明高等学校に勤務、2日間は県立清陵情報高等学校及び県立郡山商業高等学校に勤務しています。

Q 日本の高校生の印象は？

A 熱心で、心優しく、すばらしい可能性を秘めています。また、世界のことを考えている生徒もいます。教室では、恥ずかしがって、なかなか英語で話さない生徒でも、街で会うと、自分から積極的に話しかけてくれて、30分も英語で話したこともあります。

Q 福島のもので好きな食べ物は？

A ジョージアの桃もおいしいですが、福島の桃もとてもおいしいです。

Q 福島県の印象は？

A アメリカでは、福島県の情報がとても少なかったのですが、日本人の友人から、住んでみたい場所にぴったりあっていると推薦されました。ボランティアに参加したり、福島の歴史と文化を学んだり、生徒と部活動をしたり、とても充実した毎日を送っています。また、三春で陶芸の勉強もしました。郡山や三春の雰囲気がとても気に入っています。



県立安積黎明高等学校スポーツ大会にて(右から2人目がエミリーさん)

Q 福島県の英語教育は？

A 英語の教員でなくても、英語にとっても堪能な先生がいるのにはびっくりしました。英語の上達には、英会話が一番だと思います。

インタビューには英語で答えていただき、それを日本語に訳しています。

国際理解教育

~会話とコミュニケーション~

基礎的な「会話」を用いて楽しくコミュニケーションできる子どもの育成

石川町立南山形小学校 校長 仲村 巧

今年度は、国際理解教育の中でも特に『コミュニケーション能力の育成』に焦点を当て、次のような活動に取り組んでいます。

「Challenge Time」...毎週月曜日の学級活動の時間10分~15分間実施。基礎的な会話を用いて、様々なゲームや疑似体験にチャレンジする時間。

「World Time」...総合的な学習の時間(年間20時間)におけるALTとのT・T(ティーム・ティーチング)による授業。



「Challenge Time」Happy Christmas! Let's go shopping!
「World Time」

~EAA事業~

国際理解教育の推進とEAA事業

福島市立蓬 東小学校 校長 君島 勇吉

福島市教育委員会から国際理解教育推進事業モデル校に指定され2年目です。

EAA事業

・福島市が、英語活動支援員(EAA:English Activity Assistant)を学校に派遣する事業です。蓬 東小学校には、年間120時間派遣されています。3年生から6年生までの総合的な学習の時間で行う英語活動を多くの児童が楽しみにしています。

「英語で遊ぶ、歌う、会話する」

といった3つの活動を通して

異文化に触れ、英語を聞いたり話したりすることに興味を持つとともに、英語に親しみ楽しみながらコミュニケーションを図ることができる児童を育成する。

英語圏だけでなく、他の外国の文化や習慣、生活についての興味・関心を高めて国際理解の基礎を培う。

ことをねらいとしています。

EAAの有馬先生とグループごとに英語活動<ゲーム>(ゴーフイッシュ)を楽しんでいる児童たち。



~国際理解教育~

英語教育と国際理解教育

河東町立河東中学校 校長 川島 宏

平成11年度に河東町から「町学校教育国際化事業」の指定を受け、総合的な学習の時間に国際理解教育を位置づけ、「情報」「文化理解」「英会話」の3領域を相互に連携して進めてきました。

・IT分野を視野に入れた情報教育
・自国文化理解によって自己のアイデンティティを見つめる文化理解教育 が特徴。

「英会話」では

・各クラス毎週1時間、ALTとのT・T
・ネイティブスピーカーを招いた交流会や英会話の時間を設定

選択英語の授業では

・インターネットを用いて世界の同年代の生徒との意見交換

河東町では平成13年度から

「学校国際化ホームステイ事業」ゲストによる国際理解授業

・15年度はアメリカのミズーリ州フェイエットヒルサミットへ生徒を派遣しました。



~グランサム女子中等学校~

姉妹校~グランサム女子中等学校との交流

福島県立福島南高等学校 校長 八巻 義

平成5年より、イギリスの元首相サッチャー女史の母校であるグランサム女子中等学校との間で相互交流を行っています。こちらから出かけるのは7月の約2週間。ロンドン市内を見学したあと、生徒の家に泊まり一緒に学校に通います。イギリスからやってくるのは10月の約2週間。授業に参加したり、歓迎行事を楽しんだり、本校生と仲良く過ごします。この期間、福島南高校では校内レシテーションコンテストで盛り上がります。

*レシテーション(recitation)とは、聴衆の前で詩文を朗読することです。



Cooking授業風景

グランサム市長訪問

完全学校週5日制に対応した取組み

完全学校週5日制が、2002年4月から実施され、1年が経過しました。この制度は、学校、家庭、地域社会の役割を明確にして、それぞれが協力して豊かな社会体験や自然体験などの様々な活動の機会を子どもたちに提供し、子どもたちの「生きる力」を育むことを目的としています。

福島県では、さらに、「教えられる」から「自ら学ぶ」という学習環境への脱皮のための大きな契機、自ら学ぶ子どもへの全面的な支援を学校、家庭及び地域社会が一体となって行うための大きな契機ととらえています。そして、「うつくしま教育改革推進プログラム(ふくしまの教育7つの約束)」において関係事業を行っています。また、県立図書館、県立美術館、県立博物館、各市町村教育委員会、各地区の図書館、公民館等でも独自の取組みを行っています。

今回は、特集として、完全学校週5日制の現状と課題、その取組みの一端を紹介します。

完全学校週5日制実施の現状と課題

～福島県教育センター～

【調査の方法】

1 学校の対応の調査

・全小・中学校・県立学校の校長・教頭を対象に質問しました。

2 完全学校週5日制に対する意識の調査

・小学校3年生・6年生児童・保護者、中学校2年生生徒・保護者を対象に質問しました。(抽出 3068名)

調査は平成14年6月に実施

1 学校の対応の調査

～小学校(547校)中学校(243校)県立学校(99校)で調査～

学校では、どのような対応をしたのでしょうか？

保護者に対する趣旨説明・・・ 完全実施年度までにすべての学校で実施しました。
教育課程の編成・・・ 基礎・基本の徹底と学力向上、個に応じた指導の充実に、より重点を置いて編成しました。

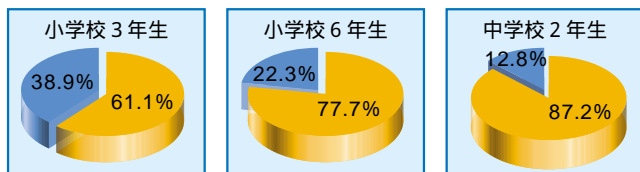
2 完全学校週5日制に対する意識調査

児童・生徒の意識

- ・休みが増えたことに好感をもっている。
- ・生活にゆとりを感じている。
- ・友だちや家族とふれ合いたい。

土曜、日曜日にどのような活動をしてみたいですか？

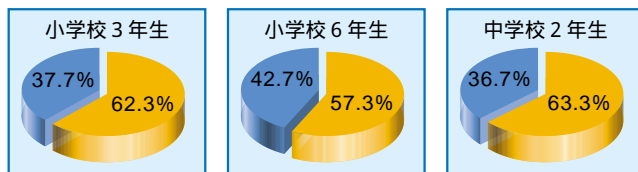
「ゆっくりと休みたい」と答えた児童・生徒の割合は



ゆっくりと休みたい
その他の回答

毎週休みが2日となり、どう変わりましたか？

「テレビ・ゲームで過ごしている」と答えた児童・生徒の割合は



テレビ・ゲームで過ごしている
その他の回答

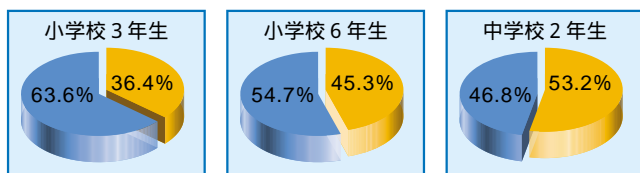
目的を持って生活できる態度の育成が今後の課題と思われれます。

保護者の意識

- ・生活の変化はみられないと感じている。
- ・手伝いや家族とのふれあいを望んでいる。
- ・地域社会での受け入れる場が必要である。

完全学校週5日制についてどのように受け止めていますか？

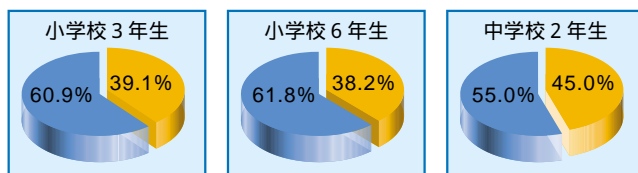
「生活の変化はみられない」と答えた保護者の割合は



生活の変化はみられない
その他の回答

土曜、日曜日に子どもたちに家庭でさせたいことは何ですか？

「手伝いや家族とのふれあいを望む」と答えた保護者の割合は



手伝いや家族とのふれあいを望む
その他の回答

休日にさせたいことは、「手伝いや家族とのふれあい」がもっとも多い。

考察

児童・生徒は休みが増えたことで生活にゆとりを感じているが、「目的意識を持って生活する」という意識の高揚が課題です。また、完全学校週5日制の実施に伴う地域社会等の受け入れる場については、今後とも整備を図っていく必要があります。

地域の特色ある取組み事業

青少年の「生きる力」は、体験活動の質と量、並びに学習者の意欲が大きく関わっています。そこで、自然の家や公民館をはじめとする社会教育施設等では、年間を通じて青少年向けの事業を展開し、活動の場の提供を行っています。

北塩原村営学習塾

(実施主体 北塩原村教育委員会、昨年度実施回数 31回)

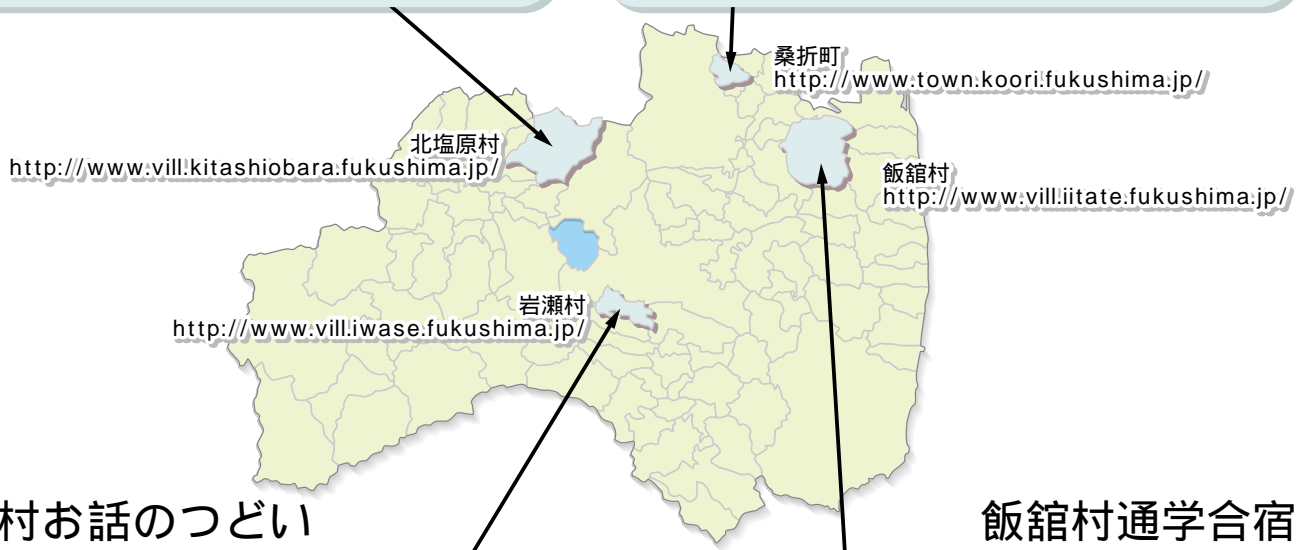
村内の中学校を開放して、毎週土曜日、小学校4年から中学校3年まで、この塾で学習することを希望する児童・生徒を対象に学習指導を行います。



桑折町地域クラブ

(実施主体 地区公民館、実施クラブ数 15クラブ)

桑折町の小中学生を対象に、4つの公民館と町民体育館・グラウンド、睦合テニスコートで実施します。毎月第1・3土曜日に実施し、重複して2つ以上のクラブに参加することができます。



岩瀬村お話のつどい

(実施主体 岩瀬村図書館、実施回数 年10回)

ボランティアや職員が読み聞かせ・紙芝居・昔話・パネルシアターなどを行い、読書への興味や動機付けと合わせて、人との交流と心のふれあいを図ります。図書館外で行う「出前話し会」も実施しています。



飯館村通学合宿

(実施主体 飯館村教育委員会、実施回数 各学校1回)

飯館村教育委員会域内の3つの小学校でそれぞれ4~6年生20名を対象に10日間、家庭を離れ、地域の施設から通学し、日常生活において様々な年齢の子どもたちと寝食を共にした合宿を実施しています。



『教育』についての提言募集

- 11月1日は「ふくしま教育の日」-

ふくしまの教育についてみんなで考え、よりよい福島県を築き上げるために、提言や感想を募集しています。

「勉強」、「学校」、「先生」、「子ども」、「おとな」、「夢」、「文化」、「スポーツ」、「地域」など、教育に関係するテーマに関して、思っていること、言いたいことなどを自由にお寄せください。

入選作については、「ふくしま教育の日」記念事業(11月1日(土)、福島文化センター)での表彰及び本人からの発表を予定しています。

詳しくは、右の問い合わせ先又はホームページをご覧ください。

応募資格 県内に居住又は通勤・通学の方どなたでも

応募締切 平成15年9月1日(月)

応募規定 おおむね800字程度

応募・問い合わせ先

〒960-8688 福島市杉妻町2-16

福島県教育庁総務企画グループ

FAX:024-521-7969

電話:024-521-7757

電子メール:k.soumukikaku@pref.fukushima.jp

ホームページ:

http://www.pref.fks.ed.jp/soumu.fks.ed.jp/

県の各機関独自の取組みの紹介

「県立図書館」『おはなしかい』

子どもたちに、本の楽しさを知ってもらうために昔話やお話、科学の本などを紹介します。

毎月 第3土曜日 14:30～15:00

場所 こどものへや

問い合わせ先 児童図書研究室・こどものへや

TEL 024 - 535 - 3218

(<http://www.library.pref.fukushima.jp>)

こどもの部屋では、こどもの本についての質問や相談を受け付けています。

「今度は、ちびごりらのお話ですよ・・・」

読み聞かせを楽しむ子どもたち



「県立美術館」『わんぱくミュージアム・親子の美術教室』

県立美術館では、自由な表現を楽しむために、小学生を対象にした創作教室を年6回開催しています。定員は15名程度で、内容に応じて募集しています。

詳しい内容は、県立美術館のホームページをご覧ください。

TEL 024 - 531 - 5511

(<http://www.art-museum.fks.ed.jp>)



「オブジェに変身！
フェイスペインティング」



「不思議な楽器」
を作成中

「県立博物館」

『学校休業日対応事業』として「自然史講座」「歴史講座」「民俗講座」「考古学講座」「体験講座」「実演」などの事業を行っています。

【8月中旬から9月の事業】

8/16(土)	体験講座	「昔話を語ろう」(実技)
8/17(日)	実演	「紙芝居」
8/21(木)	実演	「会津の唐人凧づくり」
8/23(土)	考古学講座	「大昔の生活を体験しよう」(野外) 「縄文土器の野焼き」(野外)
9/13(土)	体験講座	「おもちゃをつくらう」(実技)
9/14(日)	実演	「昔語り」
9/21(日)	実演	「昔語り」



自然史講座
「鉱物を見つけよう」

* 申し込み必要の有無はご確認ください。

詳しい内容は、県立博物館のホームページをご覧ください。TEL 0242 - 28 - 6000

(<http://www.general-museum.fks.ed.jp>)

「アクアマリンふくしま」『土曜教室』

「アクアマリンふくしま」では、海の環境や科学・文化などを楽しみながら学べる土曜教室を毎週土曜日10時30分～12時まで、定員30名で開催しています。

対象は、4歳から中学3年生で、内容に応じて募集しています。

詳しい内容は、「アクアマリンふくしま」のホームページをご覧ください。

TEL 0246 - 73 - 2539

(<http://www.marine.fks.ed.jp>)



「紙で作る水族館」
を作成中



いろいろな味の
人工イクラを制作中

「まほろん」 福島県文化財センター白河館『実技講座』

「まほろん」では、原始・古代の知恵や技術にふれる「実技講座」を、毎月第3土曜日を中心に実施しています。参加資格は小学生以上(小学4年生以下は保護者の付き添いが必要)で、事前の申し込みが必要です。

詳しい内容は「まほろん」のホームページをご覧ください。

TEL 0248 - 21 - 0700

(<http://www.mahoron.fks.ed.jp>)



土偶・土面づくり



縄文土器野焼き

豊かな自然から学ぶ体験活動推進事業

「自然の家」(財団法人福島県自然の家)において

- ・地域・生徒・学生ボランティアの活用を図りながら、子どもや保護者等を対象に自然体験・社会体験・交流体験を実施しています。特に完全学校週5日制に対応した取組みとして、「**ウィークエンドわくわく体験**」を行っています。

8月～10月における事業の案内と、前年度に実施された様子を紹介します。

(対象は小・中学校の児童・生徒とその保護者となっています。)

	事業名	実施期日	事業の目標・内容	定員
相馬海浜自然の家	親子でフィッシング	9月27日(土)	松川浦大橋を望む松川浦漁港新港で魚釣りにチャレンジし、海への親しみと親子のふれあいを深める。	80名
いわき海浜自然の家	とことん海釣り ～夜釣りにも挑戦～	9月27日(土) ～28日(日)	宿泊して夜釣りにも挑戦するなど、海釣りを楽しみながら親子のふれあいを深める。	50名
	紅葉のトレッキング ～いざ、五社山へ～	10月25日(土)	紅葉の五社山を散策し、秋の自然を楽しみながら、親子のふれあいを深める。	50名
郡山自然の家	親子で ふれあいディー!	10月25日(土)	親子で自然の家のフェスティバルに参加し、体験活動を通して、対話と絆を深める。	200名程度
会津自然の家	秋日和! 親子森の生活	9月20日(土) ～21日(日)	野外でのクッキングを親子で楽しみ、自然や他の家族とのふれあいを深める。	80名

潮干狩りと磯の生物観察
(相馬海浜自然の家)



とことん海釣り
～夜釣りにも挑戦～
(いわき海浜自然の家)

ピバ!ファミリー
キャンプ
(郡山自然の家)



新そば手打ち教室
(会津自然の家)

相馬海浜自然の家 TEL 0244-33-5224
 いわき海浜自然の家 TEL 0246-32-7700
 郡山自然の家 TEL 024-957-2111
 会津自然の家 TEL 0242-83-2480

<http://www.souma-nc.fks.ed.jp/>
<http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>
<http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>
<http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

プロジェクト研究報告 ～養護教育センター～

「子どもの心と向き合う教育実践に関する研究」(第3年次)

障害のあるなしにかかわらず、教育は対象とする子どもの心を理解することから始まります。本研究では、研究協力校(大笹生養護学校、石川養護学校、只見中学校)の協力を得ながら、子どもの心と向き合う教育実践の研究に取り組みました。授業者の先生方は、「内省」や「学習会」において、授業でうまくいかなかった点や気になった点を振り返り、新たな気づきを感じ取っていました。また、学習会等に参加した先生方は、授業者の授業に自ら身を置く中で、教師としての自分を重ね合わせ、そこに生じている課題の解決に向けて真剣に語ってくれました。そうした教師間における教育実践の共有が、結果として先生方の子どもに対する見方を変えたり、子どもへのかかわり方を変えたりすることにつながっていったと思われます。「**子どもの心と向き合う教育実践**」とは、「**子どもと教師がそれぞれに自分づくりを行う過程である**」とも言えると思われます。

(詳細は福島県養護教育センターホームページ <http://www.special-center.fks.ed.jp/> 及び研究紀要第17号をご覧ください。)



研究協力校をまじえた発表の様子

～お知らせ～

ふくしまスポーツフェスタ2003 in しらかわ (兼第23回福島県レクリエーション大会)

期 日 平成15年10月5日(日)(キャンプのみ10月4日(土)～5日(日))
 会 場 白河市内体育施設等
 参加資格 どなたでも参加できます。
 参加申込 要項により競技団体に申し込む。
 参 加 料 高校生以上一人500円、中学生以下と体験コーナー参加者は無料。
 実施種目 ソフトバレーボール、3B体操、太極拳、ウォーキング等26種目。

問い合わせ先： 県教育庁 スポーツグループ
 TEL 024-521-7795



スポーツフェスタ2002の様子

アクアマリンふくしま

小・中学生のための夏休み自由研究教室参加者募集

海水の中の生き物などをテーマに児童・生徒の自由研究を支援する「夏休み自由研究教室」を開催します。

8月18日～20日には、1日かけて自由研究を仕上げます。定員は30名です。参加希望の方は、開催日の1か月前より電話でお申し込みください。先着順で受け付けます。

土曜教室開催 詳しくは誌面を御覧ください。

申し込み、問い合わせ先：アクアマリンふくしま
 TEL 0246-73-2525 <http://www.marine.fks.ed.jp>

第27回 全国高等学校総合文化祭

8月8日からの5日間、福井県内各地域で高校生の文化の祭典「第27回全国高等学校総合文化祭」が開かれます。本県からは合唱、放送文化、将棋など計8部門に約100名が参加、また、今年度本県に新設された「文芸専門部」からも磐城高校が参加します。福井大会のHPは

<http://www.kosobunsai.e-fukui.com/jsp-koso/index.jsp>

スクールカウンセラーの募集

来年度公立小・中・高等学校に配置するスクールカウンセラーを募集します。

- 募集人員 若干名
- 募集資格 次のいずれかに該当する方
 財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定した臨床心理士の方。
 精神科医の方。
 児童・生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有し、学校教育法第1条に規定する大学の学長、副学長、教授、助教又は講師(常勤勤務をする方に限る)の職にある方。
 大学院修士課程を修了し、心理臨床業務又は児童・生徒を対象とした相談業務の経験が1年以上ある方。
 大学を卒業し、心理臨床業務又は児童・生徒を対象とした相談業務の経験が5年以上ある方。
 医師で、心理臨床業務又は児童・生徒を対象とした相談業務の経験が1年以上ある方。
- 募集期間 平成15年8月25日(月)～平成15年9月30日(火)
- 問い合わせ先：県教育庁 学習生活指導グループ
 TEL 024-521-7776

ホームページにも掲載しています。
<http://www.pref.fks.ed.jp/>

美術館でなつやすみ - 世界名作版画展 -

期間 8月24日(日)まで
 県立美術館 TEL 024-531-5511



ピカソ、シャガール、ルオーをはじめとする世界的な画家による版画の名作を当美術館のコレクションを中心に展示します。同時に、版画制作に使用する道具などの展示、ワークショップなども開催し、見るだけではなく作る楽しみも味わっていただけるよう工夫しました。面白くて奥の深い版画の世界をお楽しみください。

シャガール
 <少年時代の思い出>より
 1958年 銅版

<主な出品作家>ピカソ、レジェ、ミコ、シャガール、ルオー、エルンスト、シャーン、ウォーホル、リキテンスタイン、ホックニー

福島県芸術祭

福島県の芸術文化の振興を目的として、毎年、9月から11月を中心に各地で開催されている福島県芸術祭は、今年で42回目を迎え、音楽、美術など様々なイベントが県の芸術文化の実りを競うように繰り広げられます。今年の開幕行事は、県中地区実行委員会が中心となり、「ひびけ・輝け・心の文化」をテーマに8月31日(日)より郡山市民文化センターを会場に開催されます。計67事業が行われます。

福島県学校歯科保健優良校表彰

中央審査会の結果、今年度は、栄誉賞1校、最優秀賞3校、優秀賞22校、努力賞43校が決定しました。歯・口の健康づくりは健康教育の基礎といえます。これらの受賞校は、継続した取り組みやその成果が評価されたものです。表彰式は、むし歯予防デーでもある6月4日(水)に福島テルサにおいて盛大に行われました。



中学校卒業程度認定試験

何らかの理由で中学校を卒業できない見込み又はできなかった方に対して国が行う認定試験で、合格した方には高等学校の入学資格が与えられます。

- 出願期間 平成5年8月1日(金)～9月1日(月)
- 試験期日 平成5年11月4日(火)
- 試験場 自治会館 402会議室
 福島県福島市町8-2
- 問い合わせ先：県教育庁 学習生活指導グループ
 TEL 024-521-7776

夏の企画展 「発掘ふくしま3」 県立博物館

期間 8月20日(水)～9月23日(火)
 TEL 0242-28-6000

前回の「発掘ふくしま2」(平成10年度第2回企画展)以降に県内で実施された発掘調査の成果を中心にとりあげ、新たにどのようなことがわかり、どのようなことが問題となってきたかについてわかりやすく紹介します。旧石器時代から近世にわたる貴重な歴史資料を展示し、それぞれが福島の歴史においてどのような意味をもつのか、そして、いにしへの人々はどのような生活を営んでいたのかなどについて考えてみたいと思います。

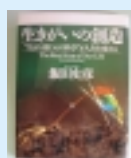


飯野町和台遺跡
 出土人体文土器

思い出の1冊

福島テレビアナウンサー 向井 佐都子

『生きがいの創造』 飯田 彦彦 著 PHP研究所



大阪生まれの私を、福島に引き寄せたのは、この本だったのかもしれない。10年前、心がズタズタになっていた高校生の私は、福島大学の飯田先生が書かれた論文のコピーが語る言葉に助けられました。どんな人のことも、大好きでありたいと思うようになったのです。その論文が本になって出版されたのは、それからまもなくです。